



お姉ちゃんが弟の
世話するのは
義務なんです。

成人向
18禁
FOR ADULT ONLY

お姉ちゃんが弟の
世話するの
は
義理
なんです。



3



華（はな）ちゃん

お姉ちゃん。
弟のことが大好き（性的な意味で）
見た目は今時のキラキラしたJKだが
元々は黒髪で地味な印象であったところを
友達にああした方がいい、こうした方がいいと言われ続け
「じゃあ、やるー」と軽い感じで受け入れ続けた結果こうなった。
弟にも好評だったので、おおむね満足している。
中身はふわふわした感じの天然色濃厚。
おっぱいはおおきめ。



雪（ユキ）くん

華ちゃんの弟。
女の子のようであるが、ちゃんと男の子。
かなりのお姉ちゃんっ子で昔からずっとべったりだったが
最近は少し姉への態度に変化が見られるようになった。





おいっ
華あーっ

香織、なに？

今日さ、隣の男子校のコラと
遊びに行くんだけど
華も行かない？



あーごめん

今日は弟と一緒に遊ぶ
約束してるから
また今度ね？



テレビゲームとかよくわかんないけど
一人でも遊べるゲームなのにお姉ちゃんと一緒にやりたいって
言われちゃって……えへへ

たー

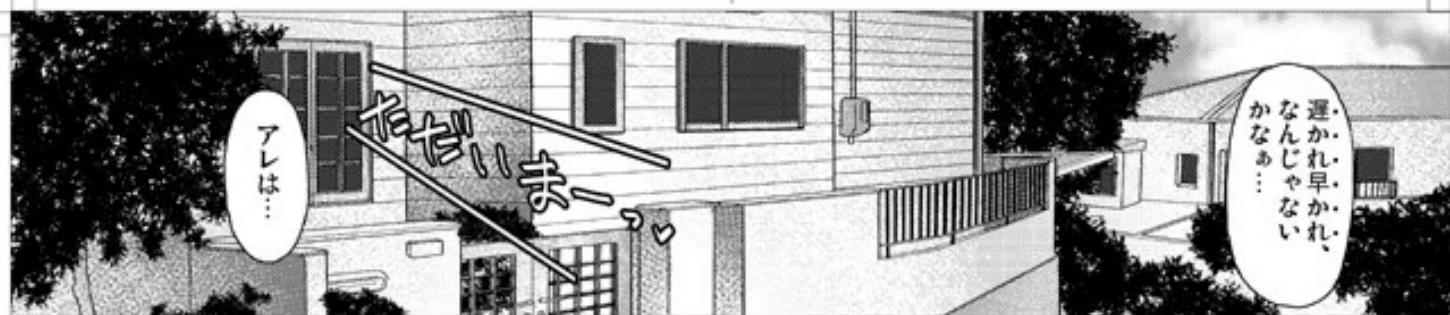
…相変わらず
呆れるほどのブラコン
だね、華って…

それほどでも！

別に寝てないから…
ナチュラルに嬉しそうに
すんな

怖いわ













ばんつ越しにおま○こ
舐めるたびに
おち○ち○もどんとん
硬くなってる

ユキくんの真意
すごい：いっぱい
くんくんされてる

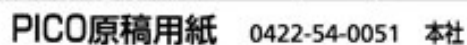
それがなんだか
とっても必死で、
可愛くて

お姉ちゃんのことばんつ…

こんなのもう、
我慢なんて出来るわけない













●シャワー待ち中の友人・香織さんの心境●



弟君、確かに可愛かったな...
あ、それはわからなくも...

見た目はギャルギャルしく（死語）、
中身はおっとりほんやり系のギャップを
想定してました。

キャラデザ案。
ちょっと思ってたより幼くなってしまったような気がして
本編ではこれよりさらにJKっぽくしてみました。



本編に近い頭身のラフがこちら。
この当時、流行ってた大丈夫云々に
ついでは乗してみたりとか。

これでもよかったと思うんですけど、
出来るだけショタキャラとの対比をわかりやすく
したかったので……。

●あとがき●

ちょうどコミ1の原稿やってる最中あたりですかね。
やたらと自分の中でおねショタ熱が高まりまして。
「なんでワイには毎日一緒にお風呂に入ってくれて
同じ布団でぎゅってされながら寝ておはようの顔面騎乗
してくれるJKの姉がおらんのか」とかそんな
ようなことをちょくちょくツイッターでつぶやいていた
ような気がします。

とりあえず本にでもしてこの熱を消化しないと、と思い
今回の夏コミを迎えたというわけですけども。

最初は夏の新作は「どう見ても〇学生にしか見えないが
二つ年上の先輩（JK）と後輩男子のすべ本」を
考えていたのですが。
前述のおねショタ熱が爆発寸前だったのと、いまいち
思い描いていたお話がしっくりこなかったという理由
から、こちらを優先しました。

今年はロリ強化多めと謳っておきながらのおっぱいで
一部の紳士の皆様には申し訳ないとは思いつつ。
JC1年生ぐらいとDS4年生ぐらいのおねショタも
アリかとは思ったんですが。
自分が今、一番求めているのはそっちの方向性ではないな
と思ったので。
おっぱいの包容力的なとか、やっぱりおねショタには
自分の中ではなくてはならないものだったようで。

などとあとがきでヒロインのおっぱいが大きい理由の
言い訳をしている本とか自分は他に見たことがない
気がするんですけども。
個人的にはどちらもイける方向性を目指してはいるので
暖かく見守っていただければ幸いです（感謝）。

とはいえ、ショタ側の子はそっち方面の需要には充分
応え得る仕上がりになったんじゃないかと……
なって……ませんか？

女装させるというネタは以前におねショタ本を描いた
際にもやっているので、どうしようか悩みました。
女装有りと無し、両方のパターンで考えてみた結果、
「スカートをとくしあげて自身のアレを姉に見せる」
というシーンがどうしても描きたかったので
有りの方向で決めました。

まあ、大好物ですからね。女装ショタ。
好きなものを描くのが一番ということで。

ユキくんもいい感じにヒロインを食う（性的な意味
ではなく）感じで可愛さアピールしてくれたとは
思うのですが、友人キャラの香織ちゃんもこれはこれで
もっとあざとくアピールしてあげたかったな感もあり。

ああいう感じの子って普段滅多に描かないので。
自分でも新鮮だったというか。
この子のおかげで、ものすごいアレなことを言うと、
今までよりそこはかとなくちゃんと漫画っぽくなった感
あって、よかったなと。

またおねショタの話に戻るんですけど。
おねショタって、大人になったらもう二度と
手の届かない領域じゃないですか。
ロリとか援助なんたらとか、実際やったらダメですけど、
物理的に不可能ではないわけで。

でもおねショタは自分が大人になった時点でもう終わり
ですし、実姉を求める場合はもう運命とか因果律とか、
そういうレベルで生まれながらにして恵まれなければ
決して得られないわけで。

多分、自分の中で燃え上がっていたおねショタ熱は
裏を返せばそういう絶望感みたいなものだったのではと
なんとなく今にしてみると思います。

やっぱり、どんな理想もそこにある二次元は最高だな、
と強引にメたく。
もう余白がないんです（切実）

それでは、また来週。

2016年7月某日 RYO



お姉ちゃんが弟の
×××××なお世話するのは
義務なんです。

2016年 8月 14日 発行
印刷会社：PICO様
発行：没後
著者：RYO

URL : <http://www.synapse.ne.jp/botugo/>
MAIL : ryo5120@gmail.com
or
mayaul@vesta.dti.ne.jp

本書の複製・複写・インターネットへのアップロードを固く禁じます
乱丁・落丁本はお手数ですが上記の連絡先までご連絡下さい



お姉ちゃんが弟の
お世話するのは
義務なんです。